



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月13日

上場会社名 株式会社三洋堂ホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3058 URL <http://www.sanyodohd.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役最高経営責任者兼最高執行役員 (氏名) 加藤 和裕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員人事総務部長 (氏名) 伊藤 勇 TEL 052-871-3434

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	6,106	△4.7	48	△71.5	45	△71.6	19	△78.3
25年3月期第1四半期	6,409	△5.8	169	△17.2	159	△24.6	89	△14.8

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 14百万円 (△82.0%) 25年3月期第1四半期 80百万円 (△24.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	3.35	3.33
25年3月期第1四半期	15.45	15.35

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	16,707	3,210	19.0
25年3月期	16,520	3,220	19.2

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 3,166百万円 25年3月期 3,176百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	-	4.00	-	4.50	8.50
26年3月期	-	-	-	-	-
26年3月期(予想)	-	4.00	-	4.50	8.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,200	△4.7	60	△79.3	50	△82.0	25	△83.6	4.31
通期	25,000	△4.6	340	△37.5	320	△38.5	110	△23.3	18.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	6,000,000株	25年3月期	6,000,000株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	196,706株	25年3月期	198,106株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	5,802,594株	25年3月期1Q	5,798,025株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しておりますが、この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済及び金融政策の期待感などから円高の是正や株価の上昇等によって景況感や消費動向の変化に明るい兆しが見られたものの、海外景気に対する不安感や原材料価格の上昇など国内景気の下振れ懸念があることから、先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

当社グループを取り巻く事業環境につきましても、消費税増税の影響などによる先行きに対する不安感から低価格志向や節約志向は継続しており、厳しい状況が続いております。

このような事業環境の下、当社グループは、ネット配信では得られないリアル店舗ならではの楽しさを追求し、雑貨・菓子・玩具・トレーディングカード・古本等の新たな商材の取り扱いを拡大した「ブックバラエティストア」を展開しております。

当第1四半期連結累計期間においては、4月に西可児店をフランチャイズから直営化したほか、同じく4月に石岡店(茨城県)、5月には新関店(岐阜県)、6月には小浜店(福井県)で、文具売場の拡大や古本の導入を行うなどブックバラエティストア化を中心とした既存店の改装を実施いたしました。また、5月より「ポストカード」や「図書カード」などのオリジナル特典を付したコミックやTVゲームなどを全国のお客様にも提供できるようにするため「三洋堂Webshop」を開設いたしました。

以上の結果、売上高61億6百万円(前年同四半期比4.7%減)、営業利益48百万円(同71.5%減)、経常利益45百万円(同71.6%減)、四半期純利益19百万円(同78.3%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 個人顧客事業

個人顧客事業の売上高は、主力の書店部門とレンタル部門は厳しい推移が続きましたが、ブックバラエティストア化の推進により文具・雑貨・食品部門と古本部門が好調に推移し、全体では60億58百万円(同4.7%減)となり、セグメントの営業利益は93百万円(同55.0%減)となりました。

(書店部門)

書店部門におきましては、4月に村上春樹の「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」(文藝春秋)が発売され、同時期に本屋大賞も発表されるなど、話題作が店頭を牽引いたしましたが、全体的には前年同四半期を上回ることができず、厳しい状況が続きました。そのため、提案型の売場作りに重点を置いたほか、オリジナル特典を付した商品提供の推進や各ジャンルの商品の品揃え強化を行うなどの取り組みを行ってまいりました。

以上の結果、書店部門の売上高は38億51百万円(同3.6%減)となりました。

(文具・雑貨・食品部門)

文具・雑貨・食品部門におきましては、4月に石岡店において文具売場を100坪に拡張すると同時に、(株)ワッツによる100坪均一コーナー「ミーツ」の導入を行い、5月には新関店、6月には小浜店において文具売場の大幅な拡張を行いました。また、飲料を3店舗、アイスクリームを3店舗にそれぞれ導入したほか、低価格帯の食玩、プラモデル及びフィギュアなどを中心とするホビーを15店舗に導入いたしました。さらに、雑貨では新たに「くつしたうりば」として、100円靴下に続く100円から300円の女性向けや男性向けのPB靴下を13店舗で導入いたしました。

以上の結果、文具・雑貨・食品部門の売上高は4億51百万円(同5.5%増)となりました。

(セルAV部門)

セルAV部門におきましては、前年同四半期に匹敵するほどの話題作がなく厳しい状況となりました。そうした状況のなか、一部の店舗でCD旧譜の在庫の強化を開始したほか、「キッズDVDプライスオフ」セールや、DVD『どれでも1枚1,000円』を実施するなどの取り組みを行いました。また、地元の特化した「夏の高校野球岐阜県大会DVD」と「夏の高校野球三重県大会DVD」を店頭と「三洋堂Webshop」にて販売を開始いたしました。

以上の結果、セルAV部門の売上高は4億64百万円(同14.6%減)となりました。

(TVゲーム部門)

TVゲーム部門におきましては、前年同四半期ほどの有力な新作ソフトがなく苦戦をしましたが、新品ゲームでは、旬なものやおすすめのものを訴求するために、最新作及び話題作の売場を変更し、6月には当社オリジナル特典付のソフトを数量限定販売するなどの取り組みを開始しました。

また、新品トレーディングカードにつきましては、取扱店舗を前連結会計年度末時点より3店舗増やして82店舗といたしました。

以上の結果、TVゲーム部門の売上高は2億50百万円(同13.6%減)となりました。

（古本部門）

古本部門におきましては、ブックバラエティストア化の推進により販売店舗数を前連結会計年度末時点より5店舗増やして44店舗としたほか、主に文庫において新本との併売を推進するなど積極的に展開し、売上を伸ばすことができました。

以上の結果、古本部門の売上高は1億26百万円（同17.0%増）となりました。

（レンタル部門）

レンタル部門におきましては、競合他社の低価格競争が激化しており、厳しい状況が続いております。そのため、ビッグタイトルや選定した商品の仕入枚数を増やして機会損失を減らす施策や、劇場公開関連作のバックオーダーを実施するなど、仕入の強化を行うと共に、洋画の新作売場を拡げてより商品をアピールできる売場に変更するなどの施策を展開し、売上の確保に努めました。

以上の結果、レンタル部門の売上高は9億13百万円（同8.1%減）となりました。

② 法人顧客事業

フランチャイジーの経営指導や商品卸売販売などによる売上高は、1百万円（同1.0%減）となり、セグメントの営業利益は0百万円（同80.4%減）となりました。

③ サービス販売事業

不動産賃貸収入、自動販売機収入、受取手数料、保険代理業収入などによるサービス販売事業の売上高は、46百万円（同3.0%減）となりましたが、転貸契約の解消に伴う当該売上原価の減少などにより、セグメントの営業利益は33百万円（同6.6%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は167億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億87百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加などにより流動資産が3億13百万円増加したこと、建物及び構築物などの償却により固定資産が1億26百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては134億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億97百万円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金や短期借入金の増加などにより流動負債が3億75百万円増加したこと、長期借入金の返済が進んだことなどから固定負債が1億78百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては32億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ10百万円減少いたしました。これは主に、四半期純利益の計上及び剰余金の配当などにより利益剰余金が6百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年5月14日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,390,917	1,574,071
売掛金	80,583	67,554
商品	5,046,062	5,219,409
その他	653,985	623,751
流動資産合計	7,171,548	7,484,787
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,513,077	3,427,407
土地	2,760,822	2,760,822
その他(純額)	475,457	458,014
有形固定資産合計	6,749,356	6,646,244
無形固定資産		
投資その他の資産	429,171	410,417
その他	2,173,391	2,169,162
貸倒引当金	△3,000	△3,000
投資その他の資産合計	2,170,391	2,166,162
固定資産合計	9,348,920	9,222,824
資産合計	16,520,469	16,707,612
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,750,422	8,106,061
短期借入金	—	300,000
1年内返済予定の長期借入金	734,976	726,576
未払法人税等	176,830	58,832
賞与引当金	72,425	43,752
ポイント引当金	191,660	191,710
その他	598,360	473,472
流動負債合計	9,524,674	9,900,403
固定負債		
長期借入金	2,889,886	2,712,442
退職給付引当金	294,363	294,846
資産除去債務	566,014	568,778
その他	25,309	21,019
固定負債合計	3,775,573	3,597,086
負債合計	13,300,248	13,497,490

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,290,000	1,290,000
資本剰余金	1,016,933	1,016,933
利益剰余金	990,279	983,395
自己株式	△170,773	△169,566
株主資本合計	3,126,440	3,120,762
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50,527	45,529
その他の包括利益累計額合計	50,527	45,529
新株予約権	43,252	43,830
純資産合計	3,220,220	3,210,121
負債純資産合計	16,520,469	16,707,612

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	6,409,145	6,106,265
売上原価	4,458,095	4,249,364
売上総利益	1,951,050	1,856,900
販売費及び一般管理費	1,781,151	1,808,449
営業利益	169,898	48,450
営業外収益		
受取利息	1,400	1,299
受取配当金	2,208	2,057
受取保険金	1,045	2,191
その他	2,614	4,258
営業外収益合計	7,269	9,807
営業外費用		
支払利息	13,710	12,449
その他	3,913	419
営業外費用合計	17,624	12,868
経常利益	159,542	45,388
特別利益		
補助金収入	2,466	—
新株予約権戻入益	—	271
特別利益合計	2,466	271
特別損失		
固定資産除却損	—	863
固定資産圧縮損	2,466	—
その他	47	—
特別損失合計	2,514	863
税金等調整前四半期純利益	159,495	44,796
法人税、住民税及び事業税	50,239	57,584
法人税等調整額	21,270	△32,232
法人税等合計	71,510	25,351
少数株主損益調整前四半期純利益	87,984	19,444
少数株主損失(△)	△1,569	—
四半期純利益	89,554	19,444

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	87,984	19,444
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,846	△4,998
その他の包括利益合計	△7,846	△4,998
四半期包括利益	80,137	14,446
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81,707	14,446
少数株主に係る四半期包括利益	△1,569	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。